

2月7日(火)

見て、私たちに似ている

聖書朗読 ヨハネ 14：8～14

御子は、見えない神のかたちであり、造られたすべてのものより先に生まれた方です。
コロサイ 1：15

赤ちゃんが生まれたとき家族は皆、その顔つきを見て、誰に似ているかと専ら話題にするでしょう。どちらの遺伝子を引き継いでいるかは、子どもが成長するにつれ、明らかになってくるのですが。

イエス様は、父なるお方についてよくお話をされました。ピリポの求めたこと（私たちに父を示してくださいという求め）は、確かに理論的と思えますが、それに対するイエス様のお答えは、彼を驚かせたことでしょう。イエス様が世にいられたのは、この世に神様を説き明かされるためでした（ヨハネ1：18）。キリストに従うものとして重要なことは、神の似姿に変えられるということです。私たちがイエス様に似た性質を表すとき、同時に神様に似た性質であることも表しているのです。私たちがこのことを目標とするなら、私たちの生き方は真に変えられるでしょう。他者に、これまでとは違った接し方をするようになり、優先順位が変わり、人生を異なった視点で見るとようになります。そして、自らがイエス様のご性質を表すものになりたいと、心から願うようになるのです。

赤ちゃんが成長し、子ども時代を経て、さらに大人になるにつれ、その遺伝的傾向は顕著になってきます。そのように、私たちも人生における真の目的に焦点を合わせ続けるなら、イエス様に似た者へと成長するにつれ、霊的にも成長してゆくのです。

讚美歌 355

祈り 親愛なる主よ。どうか日々あなた様を求め、そうすることにより、あなた様に似た者へと変えられるよう助けてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジェリー／リン・ジョーンズ

ミズーリ州 セントチャールズ

2月8日(水)

主が去ってしまう

聖書朗読 ヨハネ 14：22～26

「あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい。」
ヨハネ 14：1

ある日、少年が寝室の窓から外を見ると、彼の父親が小さなスーツケースを引いてちょうど車に乗り込むところでした。少年は大急ぎで玄関の戸を開け、父親に走り寄って尋ねました。「お父さん、どこ行くの?」。父親はアルコールの臭いをさせながら、ただ怒鳴るだけで、問いに答えてはくれませんでした。その日は、彼の母親が父親のもとを去ってからまだ何か月も経っていませんでした。そして、今度は、父親が少年のもとを去ろうとしていたのです。父親はその晩、そして翌日も、家に帰ってくることはありませんでした。少年は当時まだ15歳。たった一人、不安を感じながら、取り残されてしまったのです。

ヨハネの福音書の終わりにかけて、イエス様はご自分が去って行かれることについて、弟子たちに心の備えをさせています。彼らは理解できず、多くの質問をします。ヨハネ14章では3度、イエス様は、弟子たちを慰められ、決して取り残されるのではないのだと、確信をお与えになりました。

『父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいづまでもあなたがたと、ともにおられるためにです。』（ヨハネ14：16）。『わたしは、あなたがたを捨てて孤児にはしません。わたしは、あなたがたのところに戻ってくるのです。』（ヨハネ14：18）。『わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。』（ヨハネ14：23）。

クリスチャンである私たちには、イエス様が弟子たちにお与えになったのと同じ約束が与えられているのです。ご聖霊が私たちの内に住んでおられます。助け主であるご聖霊は、私たちを導き、教え、慰め、助け、そして、イエス様のみことばを思い出させてくださるのです。私たちは一人ではありません。孤児として取り残されてはいません。わたしたちには確信している約束があるのです。

聖歌 612

祈り 親愛なるお父様。私たちを離れて一人にさせず、ご聖霊を送って、私たちの内に住まわせてくださり感謝します。日々のご聖霊の働きに気づかせてください。イエス様が戻られる日を待ち望みます。

イエス様のお名前によって。アーメン。

サリー・J・ジャンク

ウェストバージニア州 ヴィエンナ

2月11日(土)

恐れと平安

聖書朗読 ヨハネ 20:19~23

そして、もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいるのです。

Iコリント 15:17

「主は亡くなってしまった。私達はうろたえてしまいます。権威ある者たちが私達を捜しにやって来るに違いない。「わたしに従いなさい」という教えは、うまくは行かなかった。」あの日曜の朝、弟子たちがこのように困惑し、絶望の極みにあったことが想像出来るでしょう。何も期待通りに行かず、望みどおりにはならなかった。彼らほど落胆した群れは、他に見出すことが出来ないほど、彼らは失意の底にあったのです。

けれどもそれから一瞬にして、彼らの絶望は喜びに、恐れは平安に変えられたのです。彼らを覆っていた雲は、キリストが彼らの前に再び現れたことと、そのみことばにより、消し去られました。この瞬間、彼らの世界は永遠に変えられたのです。

日々の歩みにおいて、私たちはあの日の弟子たちほど落胆することはないかもしれませんが、甦られた救い主にお仕えしているという事を常に意識することによって、私たちは喜びと自信と平安に満たされて生きることが出来るのです。イエス様が現れて「あなたがたに平安あれ」とおっしゃったとき、弟子たちのいのちは変えられたのです。その同じ事実は、御国にお仕えするために、主が私たちに与えになった毎日の歩みにおけるわたしたちの姿勢に、劇的な変化をもたらして下さるはずです。

信仰とは、神の恵みを大胆に信頼して生きること。

神の恵みは全く確かなものであり、人は幾度でも、自分の人生をその恵みに託すことができる。

—— マルチン・ルター ——

聖歌 575

祈り 親愛なる父よ。あなた様の子どもとして与えられた人生を、大切にすることが出来ますように。イエス様は死から甦られたのですから。イエス様のお名前によって。アーメン。

リチャード・E・ウォルフ
カンザス州 オラテ

2月12日(日)

まさに主とともに

聖書朗読 Iコリント 12:12~26

ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとえ多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。
Iコリント 12:12

2011年4月27日、アラバマ州フィル・キャンベルという人口1150人の町が、トルネードにより大打撃を受け、20数名が亡くなりましたが、その後6月17日、ある集団が全世界から集まり、がれきの除去作業などを手伝うことを申し出てきました。その集団の男性たちの名は皆、「フィル・キャンベル」でした。

本来は、その町で町をあげての祝会を予定していました。世界中から「フィル・キャンベル」という名のすべての人を招待して、「フィルと一緒に」という年次大会第一回を開催するというものでした。このE-5トルネードが起きる前のことです。

けれども、このやや馬鹿げたイベントのためにアラバマまで行く予定だった「フィル・キャンベル」の多くが、そのイベントの代わりに、町の再生のために集まることを決意したのです。たくさんの「フィル」は一体となって、がれきの撤去や屋根の修理、自分たちで力とお金を合わせて、新しい家まで建てました。「フィル・キャンベル」は、テキサスはオースチン、ニューヨークはブルックリン、アラスカはジュノー、ウィスコンシンはラファージュ、カリフォルニアはパロアルトから、スコットランドはグラスゴー、イギリスはノッティングガムなど、各地から集まったのでした。

その週まで彼らは、お互い一度も会ったこともありませんでしたが、彼らは「同じ名前」を持ち、周りの人達への「同じ思いやり」をもって、一つの家族のようになりました。一つの目的を持って。わたしはこう思いました。「これこそキリストと共にあるのだ」と。

讚美歌 403

祈り 父よ。あなた様の御子の素晴らしい教会に私たちをお招きくださり加えてくださったこと、そして主の名によって仕える特権を感謝いたします。キリストの御名によって。アーメン。

マーク・ガイ
カリフォルニア州 プレサントン